

2019年度 行岡医学技術専門学校 学校評価

○実施学科

看護第1学科
歯科衛生科

○実施時期

自己評価：2019年4月
学校関係者評価：2019年5月～6月

○学校評価の方針

自己評価結果の公表方法		
各学科、「学校法人行岡保健衛生学園 自己評価表」に基づいて、自己評価を実施している。評価項目については、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局：平成25年3月）」を参照して定めている。 なお、自己評価結果については、学校法人行岡保健衛生学園「情報公開」 www.yukioka.ac.jp で公表している。		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
各学科、「学校法人行岡保健衛生学園 学校関係者評価 評価表」に基づいて学校関係者評価を実施している。評価項目については、「教育理念・目標」、「学校運営」「教育活動」、「学修成果」、「学生支援」、「教育環境」、「学生の受け入れ状況」「法令等の遵守」「社会貢献・地域貢献」、「法人運営・財務」の10項目である。 また、評価委員会については、各学科の専門分野における業界関係者（就職先・実習先施設、業界団体、職能団体役員）、学校運営に関する専門家（学校マネジメント）、卒業生より人選している。 なお、学校関係者評価結果については、社会のニーズを踏まえた実践的な職業教育機関としての使命を果たすべく、組織的・継続的見直しのための客観的な指標として活用している。併せて、公的な教育機関として、社会的説明責任を果たす観点からも、学校法人行岡保健衛生学園「情報公開」 www.yukioka.ac.jp で公表している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
看護専門学校教学部長	都度	学校運営に関する専門家（マネジメント）
短期大学教授	都度	教育関連
歯科医院	都度	業界関係者（産業界、卒業生）
歯科医院	都度	業界関係者（産業界、卒業生）
医療機関	都度	業界関係者（産業界、就職先、実習先）
医療機関	都度	業界関係者（産業界、卒業生）
医療機関	都度	業界関係者（産業界、就職先）

整骨院院長、同窓会役員	都度	業界関係者（産業界、卒業生）
整骨院院長、職能団体役員	都度	業界関係者（産業界、職能団体）
会社役員、同窓会役員	都度	業界関係者（産業界、卒業生）
整骨院代表、同窓会役員	都度	業界関係者（産業界、卒業生）
学校関係者評価結果の公表方法		
学校法人行岡保健衛生学園「情報公開」 www.yukioka.ac.jp で公表している。		

以上

行岡保健衛生学園 自己評価表

学校名：行岡医学技術専門学校

学科名：看護第1学科

記入者：吉田 菊江（教員 11名）

1. 学校の教育目標

学則・授業計画 P2 参照

1. 人間を成長発達変化している身体的・精神的・社会的靈的(スピリチュアル)に統合された存在として捉え、幅広く理解する能力を養う。
2. 人間の健康と生活を物理的・生物的・社会的・文化的 環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。
3. 人間の多様な考え方を認識し、喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、倫理に基づき看護を実践する。
4. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に 基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
5. 専門職としての成長をめざして、社会情勢の変化や科学・技術の進歩に関心を持ち、自ら学び続ける態度を養う。
6. 保健医療福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるように、それらを調整するための能力を養う。

2. 学科の教育目標

授業計画各科目目標 P7～P13

実習要項の P 各看護学実習 45・P57・P80・P92・P102・P114・P120・P130

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・理念が「協同」から発展して「適応豊かな人材の育成」という文言が応募パンフレットには記入されているが、学生便覧などの学生が常時持参するものに明文化されていない。
- ・卒業時の育成人材像（目標・学年別目標がある）が弱い。
- ・多職種連係や地域包括ケアシステムにあった教育が求められている。
- ・保護者等への周知は保護者会での入学時オリエンテーションや保護者宛ての国家試験支援文書に留まっている。

② 今後の改善方策

- ・学校の将来構想を上層部や教員とすり合わせし明文化していく。
- ・理念・卒業時の人材育成像の明文化
- ・2020年度入学生より実施されるカリキュラム改正時に業界ニーズを盛り込んだカリキュラムとする。
- ・学生には噛み砕いて、授業や実習・行事のたびに関連付けて伝えていく。
- ・保護者への理念・目的・目標などは意識して機会あるごとに周知徹底していく。

③ 根拠資料

- ・学生便覧 P2、授業計画 P2（実習要項 P1 は同様のもの）、募集パンフレット、
- ・保護者会、保護者宛ての国家試験支援文書（一部）

④ 記事項

- ・看護界のニーズは、地域包括システム、在宅医療の需要の増大、多死時代・看取り、多職種連係が求められている。
- ・2022年、高校の学習指導要領が変更され「自ら課題を設定し他者と協同し実現していく力」が求められている。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 3 ② 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 ② 1

① 課題

- ・就業規程が古い。給与体系が不明瞭。
- ・法令は遵守するように心がけているが、コンプライアンスに関する規程がない。
- ・HPでの情報公開が少ない。(受験生の情報収集方法はHPが1位)
- ・業務効率化が低い。

② 今後の改善方策

- ・事務方に相談し、整備する。
- ・HPで公開する内容については保健衛生学園で共有し公開する。
- ・看護学校管理システムを導入し効率化を図る(購入計画にリストアップしている)

③ 根拠資料

- ・H30年度看護第1学科運営方針
- ・学則(組織に関する規程)・・・1の資料参照
- ・個人情報保護方針(学生便覧、実習要項)
- ・オープンキャンパス・保護者懇談会で「学校説明」資料(国家試験合格率、入試倍率、就職率、実習病院の公開)、募集パンフレットに実習病院の公開

④ 特記事項

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	4 ③ 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、就業年限に対応した教育到達レベルが明確にされているか	4 ③ 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・卒業時の到達度目標を見直す。
同時に3つのポリシー（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を明文化する。
- ・教員の確保
- ・能力開発のための研修受講が少ない。（出帳扱い、交通費の補助があるのみ）

② 今後の改善方策

- ・明文化する
- ・教員の能力開発のための研修（管理能力・コーチング・発達障害ある学生の指導など）の受講や当校での研修会の企画をする。出帳扱い、交通費の補助を有効利用する。
- ・教員の確保

③ 根拠資料

- ・授業計画（教育目標・学年別教育目標・科目構造図・分野別目標など）
- ・実習要項
- ・学生による講義・実習評価
- ・教員の研修受講状況
- ・H31年度教員一覧表

④ 特記事項

- ・2020年度入学生からカリキュラム改正する運び（厚労省）。
- ・実習評価は施設の実習指導者会で伝達している。指導者や看護部から意見をいただく。
- ・授業評価は意見がみられる場合やわかりにくい場合は講師にフィードバックしている。
- ・国家資格取得に対して問題集の1年生からの購入、1年生から問題への取り組み・見直しをしている。模擬テスト、個別指導、補講、保護者への協力依頼の文章発送などの体制は整えている。模擬テスト業者との連携。
- ・教員は指定規則上の人数は確保できているが、実習病院が多岐にわたっているのと数名は確保したい。実習指導教員は2名在籍。

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び計画を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 3 ② 1

① 課題

- ・国家試験合格率が全国平均点より低い。
- ・退学者が年間3学年で合計4名～7名。理由は1位健康上の理由2位は進路変更である。
- ・卒業生の社会的活動の把握とキャリア支援が弱い

② 今後の改善方策

- ・全国合格率に到達するように国家試験対策の強化
- ・入試の面接での「看護師になりたい動機」を本人の言葉で言えているかの確認
- ・実習記録の枚数・内容の見直し
- ・発達障害などの学生の「合理的支援」などについて、保健衛生学園として体制を検討する。
- ・毎年卒業生のウエルカムディの企画、看護部との連携

③ 根拠資料

- ・就職率 ・国家試験合格率 ・退学率
- ・H30年度ウエルカムディ実施記録
- ・高校出前授業・受け入れ授業

④ 特記事項

- ・卒業後の動向は、実習病院では看護部から情報を得ている。卒業生の学校訪問者は対応している。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・母体病院の奨学金制度について、1年次の就職決定が3年次に心境変化がある。
- ・発達障害などの学生が在籍するようになってきたのでスクールカウンセラーなどと相談しながら指導にあたりたいので配置を望む。また支援体制を保健衛生学園として整備が必要。
- ・学校医の任命がない（健康管理規程に逸脱）。
- ・学生に対する経済的支援体制（病院奨学金・日本支援機構・オリコ）の部所がほしい。
- ・卒業生の支援体制が弱い（卒業生ウェルカムデイ・卒業生来訪時話を聞く・各実習施設看護部との連携による支援）。
- ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが弱い。

② 今後の改善方策

- ・マグネットホスピタルになるために学校・看護部双方で検討する（看護部は毎年奨学生のための時間を設ける、学校は行岡の強みを知らせる）
- ・スクールカウンセラーの配置・学校医の任命
- ・学生に対する経済的支援体をつかさどる部所について保健衛生学園として検討する。
- ・卒業生の支援体制が弱い（卒業生ウェルカムデイ・アンケート）
- ・高校への出前授業などで専門学校教育を体験させ、入学前の連携を行う。

③ 根拠資料

- ・健康管理規定
- ・H30年度卒業生の支援体制実施状況
- ・H30年度就職指導年間計画表

④ 特記事項

- ・進路・就職に関する支援体制は原則として各学年の教員⇒副学校長の面談を行っている。
- ・学生相談に関する体制は原則として各学年の教員⇒教務主任・実習調整者⇒副学校長の順に面談をしてる。保護者は早めに来校してもらい連絡は密にしている。個人ファイルに記録している。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・南海トラフなどの自然災害を見据えた防災体制の整備

② 今後の改善方策

- ・実践的な防災体制の整備

③ 根拠資料

- ・学内外の実習施設の教育体制の整備：実習要項
- ・防火訓練実施の実施
- ・大阪 880 万人の訓練に参加
- ・在宅訪問看護ステーションのインターシップへの参加状況

⑤ 特記事項

- ・学内外の実習施設について十分な教育体制の整備：実習施設は大阪府に申請し実地調査後承認を受けている。(指導要領で整備すべく、実習指導者の要件や図書の整備、更衣室、討議室、必要備品の整備など)
- ・就職と関連させて、病院のインターシップに行っている。

(7) 学生の受入れ状況

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・18歳人口の減少・年々応募者の減少

④ 今後の改善方策

- ・指定校推薦導入で、確実に現役生を確保する 指定校推薦入学試験の導入
- ・医療系施設で働いた経験がある社会人を推薦する社会人推薦入試を導入する

⑤ 根拠資料

- ・応募状況倍率 (受験生÷入学生)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
倍率	4.9倍	5.7倍	5.2倍	4.2倍

- ・OC/メディカルフェスタ応募状況 (人)

	H28年度	H29年度	H30年度
OC	333	325	329
メディフェス	370 (2回)	422 (4回)	305 (3回)
メディフェス(看護第1希望)	220	199	145

⑥ 特記事項

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4 ③ 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 ③ 2 1

① 課題

② 今後の改善方策

③ 根拠資料

④ 特記事項

- ・ H29 年度財務報告書 (HP で公開)
- ・ 毎年の監査状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 ③ 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 3 ② 1

① 課題

- ・HPにプライバシーポリシーなどの文章をのせられていない。
- ・自己評価結果を公開していない。

② 後の改善方策

- ・HPにプライバシーポリシーなどの文章を載せる。
- ・自己評価結果の公開をする。
- ・他者評価、第三者評価

③ 根拠資料

- ・H28年度 自己点検自己を実施・改善方策と取り組み

④ 特記事項

- ・毎年保助看法の14条報告があり、保助看法に逸脱していないかの確認がある（カリキュラムの実施状況や教員の要件、入学者数・卒業者数、実習施設の確認など）
- ・H28年度 自己点検自己評価を実施。その後の改善方策のH29年度の取り組むべき運営方針として①職業人になるという自覚育成のためのキャリア教育②ホームカミングデイを設け卒業生支援に取り組んだが参加者が総計17名であった。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 ② 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1

① 課題

- ・学校や学生の地域貢献が少ない

⑤ 今後の改善方策

- ・地域に対する公開講座やボランティア、高校からの出前授業などに取り組む。
- ・地域ニーズの把握、公開講座の実施
- ・1階ホールを利用して情報掲示板を作り、地域のボランティア情報を提供する
- ・認知サポーター養成講座を実施し、地域に存在がわかるように取り組む。

⑥ 根拠資料

- ・地域の高校の要請に答え、出前授業を実施した。

⑥ 特記事項

- ・OC への学生応援,学生の保育園の運動会への参加や老人ホーム・デイケアのなどの夏祭り参加、行岡バザーの協力・参加している。
- ・行岡病院に「人工呼吸器蘇生人形」「AED」採血練習用「血管くん」、実習病院に「吸引」シミュレーター人形などを貸している。
- ・行岡病院の看護研究の授業・研究発表助言をしている。
- ・当校歯科の講義の実施。
- ・地域の高校の要請に答え阿武野高校の講義を当校で実施、18名参加。なみはや高校の要請に答え「看護師になるために」の講義を高校1・2年生30名に実施。
- ・実習病院との実習指導者会や年1回の講演会などを通して交流している。

行岡保健衛生学園 自己評価表

学校名：行岡医学技術専門学校

学科名：歯科衛生科

記入者：福田 弘美

1. 学校の教育目標

本校の教育理念の「協同」から発展して、「適応力豊かな医療人の育成」

2. 学科の教育目標

「適応力豊かな医療人」を目指すうえで学生には、科の教育目標は「成し遂げる力」を養うことである。

「成し遂げる力」を達成するためには

- ・ 歯科衛生士になるという強い意思をもつこと
- ・ 相手を思いやり、寄り添う気持ちをもつこと
- ・ 心身ともに健康であること

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 ③ 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	4 ③ 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業 界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

学校の理念、目的等は入学前のオリエンテーション（学生・保護者説明会）にて周知している。将来構想までは周知していない。

②今後の改善方策

学生へは臨床実習前のガイダンス時に再度学校の理念・目的を徹底していく。

③根拠資料

資料1参照

④特記事項

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 3 ② 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 3 ② 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 ② 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 ② 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 ② 1

①課題

教員は毎日午前と午後の学生点呼、非常勤講師への講義資料印刷準備ならびに担当科目講義など業務は多岐におよんでいる。そのため業務の効率化が図られずらい。

②今後の改善方策

③根拠資料

④特記事項

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	4 ③ 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、就業年限に対応した教育到達レベルが明確にされているか	4 3 ② 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 ② 1
・関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 ② 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 ② 1

①課題

- ・授業評価の実施をしていない。

②今後の改善方策

- ・各科目の授業評価表を作成し実施していく

③根拠資料

- ・関連分野における業界との連携 資料2
- ・成績評価 2019年学校要覧 第20条 資料3, 4

④特記事項

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び計画を把握しているか	4 3 ② 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

- ・国家試験合格率は2年連続で全国平均以上である。しかし、100%の合格率には至っていない。受験生全員が資格取得できるようにすることが課題である。
- ・毎年、退学者がみられる。その対策として面談を前期と後期に実施している。面談は面談カードに学生が記入した後に実施する。カードの内容ならびに管理方法の見直しが必要である。

②今後の改善方策

- ・退学防止対策として保護者との連携をこれまで以上に図る方法を検討している。年に1回は保護者懇談会を実施していきたいと計画している。

③根拠資料

面談カード 資料5、6参照

④特記事項

- ・退学者率は2017年度より2018年度は半数に減少してきている。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 3 (2) 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 (2) 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 (2) 1
・保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 3 (2) 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 3 (2) 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2 1

①課題

- ・ 卒業生への卒後研修が実施できていない

②今後の改善方策

- ・ 卒業生への研修（時代のニーズに即した）を計画していきたい

③根拠資料

- ・ 進路・就職に関する状況を把握する調査表を提出し相談にのっている。資料7参照

④特記事項

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4 ③ 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

①課題

実習室の器機が老朽化し修理をしながら使用している

②今後の改善方策

③根拠資料

防災に関する資料 8

④特記事項

(7) 学生の受入れ状況

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1

①課題

・学生募集活動は適正に行われていると考える。しかし、歯科衛生士を希望する高校生の割合が2018年度は減少したため。受験生減となったことが課題である。

②今後の改善方策

・高校訪問の回数を1回から2回とし時期を考慮しながら募集活動をしていく

③根拠資料

学納金,他の学校との比較 資料9

④特記事項

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 1

①課題

②今後の改善方策

③根拠資料

④特記事項

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 3 ② 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 3 2 ①
・自己評価結果を公開しているか	4 3 2 ①

①課題

自己評価実施と公開をしていない

②今後の改善方策

自己評価の実施をしていき、それに伴い結果公開をしていく

③根拠資料

④特記事項

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 2 ①
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 ② 1
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4 3 2 ①

①課題

・ボランティア活動は推奨しているが、現時点では社会貢献・地域貢献が十分になされているとはいえない。

②今後の改善方策

他学科で地域貢献を実施していれば連携を図り、支援できる体制を考えていく

③根拠資料

④特記事項

行岡保健衛生学園 自己評価表

学校名：学校法人行岡保健衛生学園

(行岡医学技術専門学校、大阪行岡医療専門学校長柄校)

所 属：学園事務局

記入者：山田 豊

1. 学園の創設

学校法人行岡保健衛生学園（以下、「本学園」という。）の創設は、昭和7年に大阪接骨学校として認可され、翌年の昭和8年に大阪接骨学校を開校したことを起源としている。また、大阪接骨学校の実習先として、昭和9年に大阪接骨学校附属行岡外科病院（現在の行岡病院）を開設した。

本学園創設以来、現在に至るまで80余年にわたり、社会の要請に応える医療技術の人材を育成してきた。現在は行岡医学技術専門学校において看護師、歯科衛生士を養成し、大阪行岡医療専門学校長柄校において診療放射線技師、臨床検査技師、鍼灸師、整復師の養成を行っている。理学療法士に関しては、昭和45年より専門学校として養成してきたが、社会の要請に応えるべく平成24年に大阪行岡医療大学を開学し、大学教育をスタートさせた。本学園のこれまでの卒業生は2万人を超え、卒業生の多くは医療機関、行政機関、教育機関等でその中核として活躍している。

2. 建学の精神

本学園の建学の精神は、創設者である行岡忠雄博士による「医療は医師のみの力でなしえるものではない、多くの医療技術者との『協同』の上に成り立つものである。より良い医療を実現するには、良い医師と良い医療技術者は必要である。」との考えに立っており、これは現在の「チーム医療」に通ずる考え方であり、各学科においてはその建学の精神を基に、優れた医療技術者養成を目指して日々学生教育に精励している。

この建学の精神は、医療に従事するものに求められる多職種との協働及び連帯感を示したものであり、本学園では創立時からの建学の精神を礎として、患者様、家族、社会に対してよりよく幅広く適応するということを目的に、「適応力豊かな医療人の育成」を教育目標として掲げている。

(根拠資料)

- ・「仁の人」行岡忠雄博士（2018.3 発行）
- ・学校法人行岡保健衛生学園寄附行為
- ・学校案内
- ・学校要覧

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 ② 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 ② 1

①課題

○学校教育法等の法令を踏まえ、教育活動等の状況について自己評価の実施、結果公表、第三者による検証が喫緊の課題である。

○業務改善、業務改革について組織横断的な検証が必要である。

②今後の改善方策

○自己評価、学校関係者評価の実施、結果の公表は2019年6月を予定している。

○業務改善による業務効率の向上、情報の共有、並びにトータルコストの削減を目的としてグループウェアの導入を検討している。将来的にはBPRの視点より、業務プロセス全体の見直しを図ることとする。

③根拠資料

○学校法人行岡保健衛生学園 規程集

○学校法人行岡保健衛生学園寄附行為

④特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

①課題

○学園の中長期計画に基づいた、基本金組入計画の検討が必要である。

(教育環境の整備の視点より2号基本金、学生支援の視点より3号基本金)

○経営安定の視点より、学生生徒等納付金収入の安定を図ることと併せて、寄付金、外部競争資金及び補助金等の獲得に対して、戦略的、継続的な取り組みが必要である。

②今後の改善方策

(文科省)

専修学校振興予算の獲得(実証研究事業等委託事業)

(厚労省)

教育訓練給付金講座の申請

(寄附金)

「特定公益増進法人」、「税額控除対象法人」認可申請(2019年度末予定)

③根拠資料

○平成29年度財務報告書(HP公表分)

○財務関連比率(事業活動収支計算書関係比率、貸借対照表関係比率)

④特記事項

○日本高等教育評価機構 評価報告書(2019.3月)

(基準5経営・管理と財務)

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 3 2 1

①課題

○学校教育法等の法令を踏まえ、教育活動等の状況について自己評価の実施、結果公表、第三者による検証が喫緊の課題である。

②今後の改善方策

○自己評価、学校関係者評価の実施、結果の公表は2019年6月を予定している。

③根拠資料

- 厚生労働省指定養成施設 変更承認申請及び学則等変更届
- 専修学校設置基準に関わる変更承認申請及び学則等変更届
- 専門学校定例会議資料（自己点検評価及び無償化）
- 理事会・評議員会議事録

④特記事項

特になし

(その他教育成果指標)

- 平成31年度 入学試験結果 志願者数・入学者数
- 各学科別国家試験合格率 推移
- 平成29年度・平成30年度 退学・休学・留年状況

2019年度 学校法人 行岡保健衛生学園 学校関係者評価

実施日 2019年5月30日（木曜日）14時00分～17時00分

場所 行岡医学技術専門学校 5階 演習室

学校名： 行岡医学技術専門学校

学科名： 看護第1学科

評価者： 学校運営に関する専門家（マネジメント）

教育関連

【講評】

○看護師養成のモデルの一つと成りえる優秀であると高く評価する。

○アドミッションポリシー

・推薦と外部一般入試のバランスがよく広範な門戸を開いている。AO時の面談形式で明確なスクリーニングを実施されている。

・「看護師」の適正を見極める審査方法の実施が認められる。

（課題）人間科学等、対人援助系の基礎能力・知識の確認が不十分かもしれない

○カリキュラムポリシー

・東洋医学や英語、国文学等、独自の科目を継続的に実施されており、他の学校との差別化も明確にされている。

・1年次から、倫理、コンプライアンスの教育が充実していて「品格のある看護師」のモデルリングが出来ている。

（課題）4科目で留年のエビデンスが不十分である。

○ディプロマポリシー

・「看護師」の資格授与に関して適正に実施されている。毎年退学者はいるが換言すれば質の確保は継続されていると思う。

・東洋医学等の建学の精神に基づく看護師養成が行われている。

（課題）教員間の資質向上の研修が少ない。

○すばらしい理念の下設立されている学校であるため、その部分をもっと前に出された方が良いかと考える。学生がよく目にする学生便覧はもちろんのこと、学校パンフレットにも大きく載せ学校の売りにしてはどうか。

○理念として「協同」が掲げられているので、次回のカリキュラム改正時に「協同」を軸とした強化科目を設定されてもよいのではないのでしょうか。

○学校運営に関しては、保助看法にかかる専任教員数には達しているが、学生80名に対して（現在の学生は手がかかる）専任教員数が少ないかと感じた。このことは教員の負担にもつながり、離職にもつながり、教育の低下にもつながるため、今後人員確保または業務分担などを考えていかれた方は良いかと思えます。

以上

2019年度 学校法人 行岡保健衛生学園 学校関係者評価

実施日 2019年5月29日(水曜日) 10時30分～12時30分

場所 行岡医学技術専門学校 6階 演習室

学校名： 行岡医学技術専門学校

学科名： 歯科衛生科

評価者： 業界関係者2名(産業界・卒業生)

【講 評】

2名の評価者ともに本科の教育ならびに取り組みに対して、適切であると評価して頂いた。その中でも評価基準が「やや適切」、「不適切」と評価された項目から今後の課題についてまとめる。

【課 題】

*教育理念に基づいた教育成果

特記事項に教育理念に基づいた教育を受け活躍する卒業生の話を聞く機会を設けてはどうかとあった。今後の取り組みとしてオープンキャンパスなどにOGに来校してもらい取り組みも検討していきたいと考える。

*教育活動

情報公開と教員研修の取り組み

職員の能力開発のための研修は現時点では頻繁に実施されていない現状にある。社会のニーズに即した教育を実施していくうえでも研修は必要である。

*社会貢献

学校の教育資源や施設を利用した社会貢献は殆ど実施していない。今後は地域住民への公開講座等を検討していく。

以 上